

シスターと神父と爆弾

THE NUNS, THE PRIESTS,
AND THE BOMBS



映画上映会・S.リーパーさん ZOOM 交流会のお知らせ

『シスターと神父と爆弾』

監督/脚本/製作：ヘレン・ヤング 製作/編集：ロジャー・シュルツ
日本語字幕：スティーブン・リーパー/澤田美和子
原題：THE NUNS, THE PRIESTS, AND THE BOMBS
アメリカ映画/106分/2018年制作

日時：2022年10月16日（日）11:00～14:00

場所：世界平和記念聖堂（広島市中区幟町4-42）

11:00～11:14 白浜 満 司教様 **S.リーパーさん**ご挨拶

11:14～13:00 映画上映

《休憩・移動》

13:20～14:00 多目的ホール

スティーブン・リーパー氏（日本語字幕監修）

ZOOM 交流会（アメリカ・アトランタより参加）

参加費：無 料 * 会場で日本語字幕支援へのカンパを募ります。

【問い合わせ先】広島教区平和の使徒推進本部 社会司牧担当

E-mail info@social-desk.net FAX 082-221-6019

●白浜 満 司教様 メッセージ●

「社会へのチャレンジ～平和～」の年に当たる2022年度に、この映画の鑑賞が、宗教者としてのチャレンジのあり方を考えるよい機会となりますように。

●映画について●

2012年7月。米国最大の核兵器用ウラン貯蔵庫敷地内への侵入事件があった。主犯は82才のカトリック修道女と神父たち。彼女たちは、射殺されるかもしれないゾーンに忍び込み、身を隠さずに4時間も歩き回り、やがて逮捕される。侵入者たちの裁判で明らかになったのは、核施設のありえないほどのずさんな管理実態。

米國中を震撼させた事件の侵入者たちに、裁判官の投げかけた言葉とは。宗教者たちのユニークな反核平和活動と、米国の裁判シーンが興味深い。

（「被爆者の声をうけつぐ映画祭2020」のプログラムより）

核兵器は非人道的で国際人道法に違反しているという深い信念のために、刑務所に行き、死の危険を犯すことさえいとわない米国の平和活動家であるシスター・神父たちを追ったドキュメンタリー映画。

●スティーブン・リーパー (Steven Leeper) 氏について●

アメリカ、イリノイ州生まれ。

1才の時、父、ディーン・リーパーが日本キリスト教青年会(YMCA)同盟主事として着任し、一家で来日。幼年期を日本で過ごす。

1954年 青函連絡船洞爺丸事故により父、ディーン死去。その後、帰国し、アメリカでの学生生活を経て、ベトナム戦争に直面し、良心的兵役拒否者となる。兵役義務を果たす代わりに、ウィスコンシン州でChildren's Treatment Center(子どものケア施設)に4年間従事。

2007年米国人として初めて広島平和文化センター理事長に就任(～2013年)。全米における原爆展の開催や核兵器廃絶をめざす2020ビジョン・キャンペーンなど広島から世界に向けて核兵器廃絶を訴えてきた。

現在、NPO法人Peace Culture Village代表理事として、日米両国での平和文化の浸透に努める傍ら、米国はもとより、日本各地の学校や教会などでの講演活動に忙しい日々を送っている。

【著書】

『広島発 恒久平和論』増補改訂版・2015 シフトプロジェクト

『アメリカ人が伝えるヒロシマ-平和の文化』をつくるために』2016 岩波ブックレット

『核兵器廃絶への道-精神論からの視点』2021・シフトプロジェクト